

社会の状況

- Society5.0 時代
- 予測困難な社会
- 学力だけでは評価できない
非認知能力

教育目標

自分で考え
友達といっしょに活動し
ふり返りのできる子

児童の実態

- 創造力や企画力がある
- 異学年交流の上手さ
- △自己有用感の低さ
- △気持ちの言語化

研究主題**自分のよさを見つけ 学び合う力を育むキャリア教育の実践****めざす児童像****気付く子**

自分のよさに気付く子
自分を表現できる子

関わり 学びえる子

誰とでも活動できる子
優しい子

自分を広げる子

振り返りができる子
活動の見通しがもてる子

本校におけるキャリア教育で育みたい力（4つの基礎的汎用的能力の捉え）

**自分で考え、
気付く力**
(自己理解・
自己管理能力)

**友だちと関わり
学び合う力**
(人間関係形成・
社会形成能力)

活動をふり返る力
(課題対応能力)

将来を見通す力
(キャリア・
プランニング能力)

※各学年で本校におけるキャリア教育で育みたい4つの力に合わせた学年の捉え方を設定する。

研究の視点（主題にせまるための取組）**○深まりのある話合い活動**

- ICT 活用

○振り返り活動の充実

- 4つの力を意識したキャリア・カウンセリング
- 授業改善

峡田小キャリア教育の充実を支える日常の取組 環境設定

- キャリア教育年間計画の作成と、「学びの道しるべ」の活用
- 島田小キャリア・パスポートの作成とキャリア・パスポートの計画的な活用
- 進歩や成長を可視化する「学級のあしあと」の掲示
- 学んだことをふり返り、生活に生かせる「道徳の木」の掲示
- キャリア・カウンセリングの実践
- 互いを認め合う交流活動（行事後の異学年交流感想カード）
- 地域行事への主体的な参画
- 自主学習への取組
- 子供たちの自主性・主体性を生かした「特別活動」「プロジェクト」

研究の概要

1. 主題設定の理由

本校では、キャリア教育の研究を始めてから5年目になる。それは、「予測困難な時代」と言われているからこそ、自分らしく、よりよく生きていくためには、「自己肯定感、自己有用感」をもって成長してほしいという願いからである。

i-check（総合質問紙調査）では、令和2年度から5年度までで、成功体験と自信、充実感と向上心、人間関係構築力、学級の絆の数値が伸びてきて、全国の平均値に到達したり、近づいてきたりした。また、キャリア・パスポートを利用した振り返りにも、児童自らが、自己肯定感を抱いている面がうかがえたり、自己有用感をもてる場面に出会えたりしたことが増えてきている。

昨年度の様子からもさらに、「自分のよさに気付き」「友達と学び合い」「あらゆる場面で自分を広げられる」ようになってほしいという児童の姿を考えた。これは、キャリア教育を目指す、4つの基礎的・汎用的能力にもつながる。4つの能力が培われることが、自己肯定感、自己有用感の高まりにつながるととらえ、そこで今年度の研究主題を、「自分のよさを見つけ、学び合う力を育むキャリア教育の実践」とした。

2. キャリア教育で育みたい力

昨年度は、キャリア教育を通して育みたい4つの基礎的・汎用能力を本校の実態、教育目標に合わせた捉え方をした。今年度は、さらに、日々の授業や活動で4つの力を明確に振り返られるように発達段階に応じて、学年の捉え方を設定した。

**自分で考え、
気付く力
(自己理解・
自己管理能力)**

低 自分の考え方やよ
さに気付くことができる。

中 自分のよさに気
付いたり、その良さ
を伸ばしたりするこ
とができる。

高 意欲的に考え、
課題や解決策、自分
のよさに気付くこと
ができる。

ひ 取り組みたいこ
とやがんばりたいこ
とを進んで見つける
ことができる。

**友だちと関わり
学び合う力
(人間関係形成・
社会形成能力)**

低 友達の考え方を聞
いて、自分の考え方
を広げることができ
る。

中 友達との話合
い、活動を通して自
分の考え方を深め
ることができる。

高 友達の考え方を受
け止め、自分の考え方
を深めることができ
る。

ひ 友達の話を聞
き、一緒に活動でき
る。

**活動をふり返る力
(課題対応能力)**

低 自分に合っため
あてをたてて取り組
み、振り返りができ
る。

中 自分にあつため
あてをたてて取り組
み、成果や課題を振
り返ることができる

高 めあてに対して
の成果や課題を振
り返り、これからの活
動にいかすことができ
る。

ひ めあてに対して
の楽しかったことや
よかったですについて
振り返ることができ
る。

**将来を見通す力
(キャリア・
プランニング能力)**

低 身近な将来をイ
メージして活動する
ことができる。

中 なりたい自分を
イメージして活動す
ることができる。

高 一定の期間を見
通して活動するこ
とができる。

ひ 楽しい活動をイ
メージして進んで活
動することができ
る。

3. 主題に迫るための取組

自分のよさを見つけ、学び合う力をつけていくには、「深まりのある話し合い活動」と「振り返り活動の充実」が必要だと考えた。

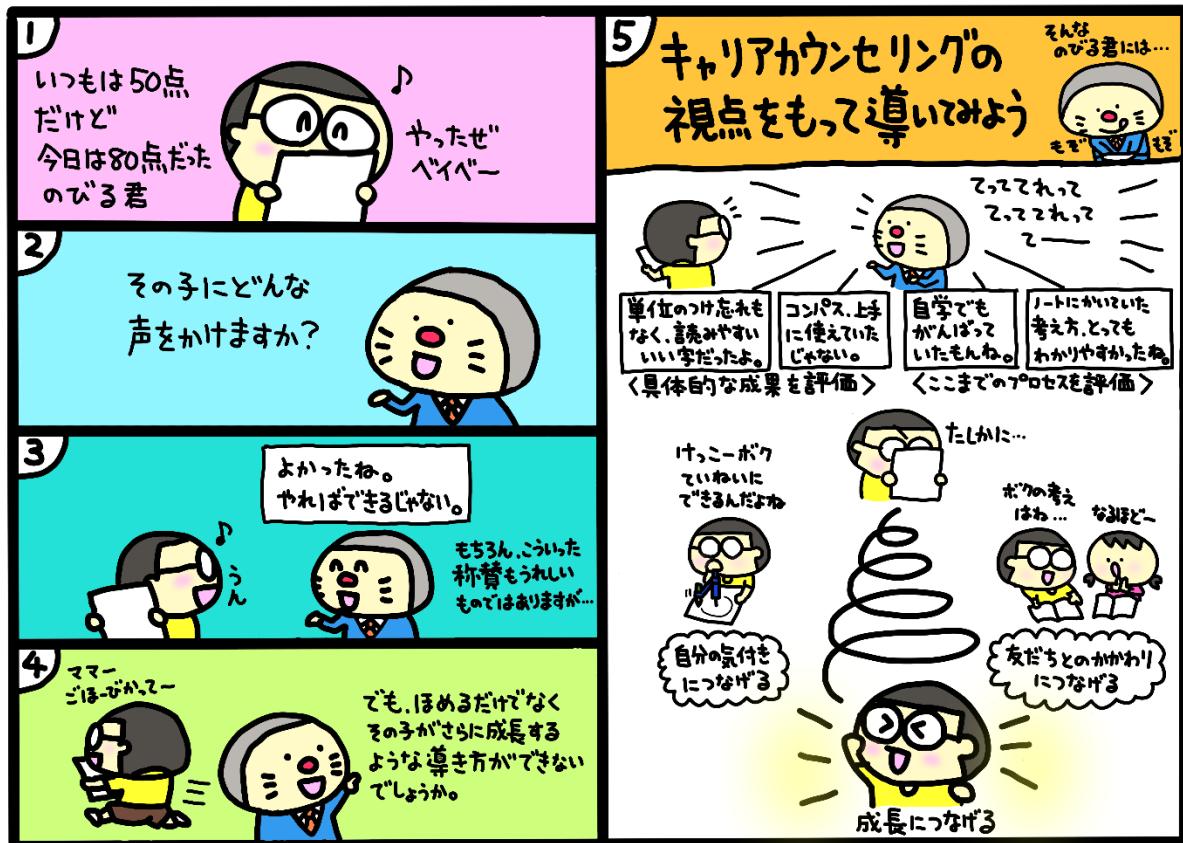
昨年度の研究の反省からも、特別活動や各教科、道徳科すべてにおいて、児童が新しい自分を発見したり、児童がより主体的に話し合いをしたりすることに課題が残っている。考えを伝え合うだけではなく、誰とでも聞き合い、話し合いを通して、新しい考えに出会ったり、自分の考えが深まったりする「深まりのある話し合い活動」を実践していく。

「振り返り活動」の充実では、行事の振り返りだけでなく、日々の授業においても「自分が何を学んだのか、どのような考えをもったのか、これからどう生かしていくのか」を表現させ、言語化させる。そして、児童の振り返りに対して、キャリア・カウンセリングの視点にたって、教師とのやりとりを行ったり、児童同士の交流をしたりしていく。

この二つを重点的に取り組むにあたり、その場に応じたICTや学校図書館を活用したり、児童が主体となり課題解決型学習ができるようにしたり、授業改善を行ったりしていく。

峡田小キャリア教育の充実を支える日常の取組 環境設定

- ・キャリア教育年間計画の作成と、「学びの道しるべ」の活用
各教室に掲示し、1か月に1回程度学びの振り返りを行う。
- ・峡田小キャリア・パスポートの作成とキャリア・パスポートの計画的な活用
特別活動年間計画をもとに、学級活動（3）の授業でも活用していく。
- ・進歩や成長を可視化する「学級のあしあと」の掲示
各クラスの実態に応じて活動の写真を掲示して、成長を実感させていく。
- ・学んだことをふり返り、生活に生かせる「道徳の木」の掲示
授業後に題材名、主題名を記入し、学んだことを可視化できるようにする。
- ・キャリア・カウンセリングの実践
運動会ノート、振り返りカードなどに、教師側から共感的、前向きな言葉を伝え続ける。
- ・子供たちの自主性・主体性を生かした「特別活動」「プロジェクト」・自主学習への取組
「自分で決める」「任せて見守る」指導を重視した活動。
- ・互いを認め合う交流活動
行事後の異学年交流感想カード、低学年の生活科、異学年の授業発表など。
- ・地域行事への主体的な参画



キャリアカウンセリングで"向き合おう"

